

## 平成25年度ポジティブ・アクション助成事業実績報告書

<b>実施団体</b>		<b>特定非営利活動法人akta</b>
<b>実施事業名</b>		東京都の高校生を中心とする若年層に対する、HIV/AIDSの普及啓発事業
<b>団体代表者</b>		荒木順子
<b>事業の目的</b>		性行動、および性への関心が活発になるティーンエイジャー、特に東京都居住の高校生がHIV/AIDSをはじめとした性感染症についての正しい知識を持ち、予防行動をできるようになることを目的とした。
<b>事業の達成度</b>		<p>①ピアな立場にある大学生等を対象にヒアリングの実施。                  ②行政と連携をして、地域の小学校・中学校・高等学校の養護教諭および保健所のキーパーソンとネットワークの構築。                  ③高校生に訴求力のある啓発資材の開発。                  ④制作した啓発資材の配布。</p> <p>2013年度に達成したこれらの取り組み、およびネットワークについては、単年度で終了するのではなく、継続的に取り組む必要がある。</p>
<b>事業実績</b>	<b>対象となった人数</b>	<p>主な対象者: 都立高校の養護教諭、地域の保健所担当者、および都立高校生。                  人数: 東京都の都立高校176校(区部・多摩・島しょ)の保健室と保健所28施設。                  (学生数: 推計158,400人)</p>
	<b>具体的な活動内容</b>	<p>①ピアな立場にある大学生等を対象に、セクシュアルヒストリーや学齢期の性教育経験などについてヒアリングを実施。                  ・多様なセクシュアリティの若年層のキーパーソンを交えて、資材制作に向けてのヒアリングを実施した。                  ・IFMSA-Japan SCORA(国際医学生連盟日本 性と生殖・AIDSに関する委員会)において、HIV/AIDSと多様なセクシュアリティのあり方に関する講演を行い、ピアな大学生との意見交換を実施した。</p> <p>②行政と連携をして、地域の小学校・中学校・高等学校の養護教諭および保健所のキーパーソンとネットワークを構築。</p> <p>③上記ヒアリングおよびネットワークを通じて、高校生に訴求力のある啓発資材を開発。HIV/AIDS、性感染症の感染経路の説明やセクシュアリティの理解、および予防行動を促進する資材の企画・編集・発行した。パンフレット(200mmx200mm 両面印刷のカード 8枚セット)およびポスター(A2)を製作した。言語的表現については、東京都のHIV/AIDSに関する教材等のテキストや意見交換内容を参照しながら編集を行った。また、ビジュアル的表現については、ティーンエイジャーに関心をもってもらいやすいようにすることおよび、セクシュアリティの多様なあり方に配慮して制作を行った。</p> <p>④制作した啓発資材について、効果的なアウトリーチを行うことができるように体制整備を行い、高等学校の養護室および保健所に啓発資材の配布。                  開発した資材は養護教諭の手元に置き、訪問した生徒への案内や保健体育等授業への貸し出し資材として位置づけた。</p>